地歴公民（日本史）　早稲田大学　教育学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式

マーク式　33 問　（語句選択６問　正誤判定 25 問　年代整序２問）　記述式　10 問　　計 43 問

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数は昨年度と同じ５題だが、設問数は１問増加した。語句選択問題は４問減少し、正誤判定問題が３問増加した。昨年度は出題されなかった年代整序問題や図版問題が出題された。全ての大問の一部に史料が使用され、史料を読み取る問題も増加した。

出題の特徴

時代別では、Ⅰが古代、Ⅱが中世、Ⅲが近世、ⅣとⅤが近現代の時代構成である。正誤判定問題が多く、「すべて選べ」という設問形式も用いられ、史料を素材とした問題が多く出題される。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	語句選択 正誤判定 記述	日本と新羅の関係 《一部史料》	問５の『万葉集』の歌の読み取りは、少し難しかったかもしれない。全体としては基本的な問題が多かったので、取りこぼすことなく得点したい。	やや易
Ⅱ	語句選択 正誤判定 記述	絵巻からみる法然の出自と武士の館 《史料・図版》	『法然上人絵伝』『一遍聖絵』を題材とした問題。21 年にも『一遍聖絵』の図版が出題されている。問１は消去法で正解したい。問２は、イ以外の選択肢を判断できないと正解するのは難しい。問４の源義朝の正誤判定は難。問５は図が不鮮明であり、判断するのは難しい。問６は史料の「慢ずる心ありて」の部分が分かれば、正解できただろう。	難
Ⅲ	語句選択 正誤判定 記述	幕末の三閉伊一揆 《一部史料》	問２の醍醐寺は難。問４の百姓の生活に関する正誤判定は難。問９は判断に迷うかもしれないが、問 10 の選択肢をヒントにすれば正解できたかもしれない。	難
Ⅳ	正誤判定 記述 年代整序	3 人の女性作家の作品から見る近現代の諸相 《一部史料》	樋口一葉・林芙美子・茨木のり子の 3 人の文学作品を題材とした問題。問４の②の「戸主に女性がなれる」ことを正文と判断するのは難。問９の戦後、本土に残った朝鮮出身者が日本国籍をはく奪されたか否かを判定させるのは難しい。	難
Ⅴ	正誤判定 記述 年代整序	日本国憲法の前文の解釈 《一部史料》	問４は選択肢の文章の中に曖昧な表現があり、難。問７は、日本国憲法第二四条の条文を正確に把握していないと正解できないので難。 ※問４については、後日、大学より設問に対する適切な解答がなかったため、解答の有無・内容にかかわらず、受験生全員に得点を与えると発表された。	難

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

早大の中でも教育学部の日本史の難度は高い。しかし、難度の高い問題が合否を分ける訳ではなく、基本～標準レベルの問題をいかに取りこぼすことなく得点できるかが重要なのである。また、例年、問題全体の約半数を占める正誤判定問題が合否を分けると考えられるので、法学部・商学部など他学部も含めた過去問演習に取り組むことにより、得点力を高めていきたい。さらに「すべて選べ」という出題形式にも慣れておく必要がある。また、最近は史料問題の難度が高まっているので、史料をじっくり読むという訓練もしておきたい。また戦後史の出題も多いので、早めの対策が必要である。

© 河合塾　2023 年